



同時開催
ダンスカフェ
サロン
パフォーマンス&トークカフェ
詳細は裏面

20世紀末のパリ

— そのパリ文化を支えた芸術家たち

2015年3月10日(火) → 16日(月) 12:00-18:00

セッションハウス・2階ギャラリー

(10日・16日は17:00にて閉館)

期間中、平日は19:00~20:30までパフォーマンス&トーク(休日のスケジュールは裏面をご覧ください)

観光とは違った日常のパリを街を、そこに住む人々がどんな生活をしているのか? 日常のパリの人々と出会い、市内をひたすら歩くことにしました—古本屋の看板、小さなカフェ、地下鉄のホーム、公園のベンチの恋人達、学校の社会科の見学で訪れたエッフェル塔のこども達、古いビルと新しいビルの建設途中の削り取られた壁のあと、移動遊技場の風景—メリー・ゴランド、モンマルトルの復活祭、祈りを捧げる人たち、演奏する人、大道芸人たちがパリの日常だったのです。

パリ文化芸術を支える文化人たち

多くのアーティスト達がパリを目指し、パリに住み、この街で亡くなった多くの画家、ダンサー、音楽家、文学者 - 芸術家たち、いまだ多くの作品を通して彼らから芸術を学ぶことができます。彼らが亡くなってもその愛し続けたパリの文化—魅力をいまだに伝えています。

20世紀末のパリの待つの風景と人々、そしてパリを愛しパリ市内の有名な墓地から現在のパリを見つめ、パリの文化を支えていたアーティスト達の生き様を紹介し、新しいパリの華麗な文化を紹介します。

ニジンスキー、E. ピアフ、トリフォー、サラ・ベルナルル、ショパン、ヴィクトル・ユーゴ、モジリアニ、サルトル&ボーヴォアール、オスカー・ワイルド、イサドラ・ダンカン、ゲンスブルなどアーティストらの墓石は彫刻—オブジェのようなお墓です。

神楽坂でパリに出会う

街並み、エッフェル、路地裏までパリ20区を隈なく歩き、パリの素顔を捉えた、20世紀末のパリのドキュメント。
(1988~2006年撮影/モノクロ&カラー約60点)
撮影: 安田 敬



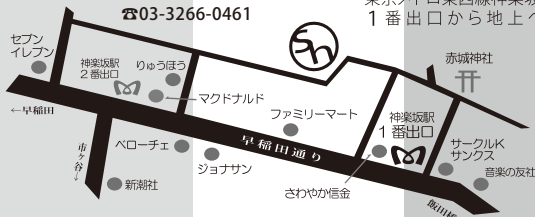
セッションハウス

〒162-0805

東京都新宿区矢来町158

☎03-3266-0461

路地裏の小劇場。
東京メトロ東西線神楽坂駅
1番出口から地上へ。



主催: 企画・ダンスカフェ 協力: セッションハウス企画室

ダンスカフェサロン

パフォーマンス & トークカフェ

定員制25名 椅子席〈予約制〉

トーク & レクチャー

2015年3月11日(水)・14日(土)・15日(日)

各テーマ各1回90分

入場料 1,000円(コーヒー付)(一部変更有)

ダンスアーカイブへの道

3/11水

19:00~20:30
「フランスにおけるダンスアーカイブの歴史」
講師:芳賀直子

3/14土

15:00
「舞踊家矢野英征 パリに死す
—フランス現代ダンスに貢献」
講師:長谷川六
スライド・トーク:高島史於

3/15日

19:00
「バニョレ国際振付コンクールと
日本のコンテンポラリーダンス」
講師:西田留美可

3/16月

14:00~16:00
ダンス・アーカイブ談義
「日本にダンスアーカイブが無いなんて!」
トーク:山野博大 加藤みや子 安田敬
ゲスト有

ダンス & パフォーマンス

2015年3月10日(火)・12日(木) → 15日(日)

1作品各20分ほど

入場料 1,000円(一部変更有)

3/10火

18:00
武元賀寿子(ゲスト)

3/12木

19:00
マグネット
(斉藤のどか・小林凜子・土志田涼加)
和中

3/13金

19:00
渡辺久美子
深堀絵梨&うえだななこ

3/14土

【昼の部】13:30
後藤かおり/上條奈美子

【夜の部】18:00
有代麻里絵/和中

3/15日

①16:30
寛一
②18:00
山名たみえ(ゲスト)



武元賀寿子



山名たみえ

お申込み

ダンスカフェ TEL&FAX 03-3975-6405 dancecafekei@ybb.ne.jp



パリにあるニジンスキーの墓石
(写真右・撮影/安田敬)

バレエダンサー・振付家のニジンスキー(写真左)
出典「バラの精/パリ1911」
DA CAPO PRESS.
NY・Nijinsky.Pavlova.Duncan

安田 敬 Kei Yasuda (写真家)

1950年 兵庫県出身 国学院大学経済学部卒業
1975年 アメリカンNANA通信社勤務
1977年 インド3人展(池袋)
1980年 写真展「フシントン広場の若者達」(新宿)
1995年 個人写真展「パリの憂鬱」(池袋)
2008年 写真展「路地裏ダンス」(銀座)
【合同展】上野/東京都美術館、板橋区立美術館出展
【雑誌掲載】朝日新聞、読売新聞、朝日ジャーナル(1980年代)
週刊プレイボーイフォーカス、週刊誌(読売・新潮・アサヒグラフ)
月刊読売・月刊潮
【企画展コーディネーター】1997年「ピナバウシュ・ヴェッパタール
芸術監督20周年記念写真展」(さいたま芸術劇場)、2004年「ダ
ンスヴィエンナーレ2004-バットシェバ舞踊団写真展」(青山・ブ
ロモ・アルテ)、カナダ・ケベックウィーク(青山劇場) ETC

1970年代はアジア中心、80年後半から欧米の取材にあたって
います。ダンスだけでなく各国の文化、社会のあり方も取材対象
として活動する。現地の写真撮影も兼ねて活動している。次代
はさらにダンスを通じて文化ネットワーク作りに励む。